



# Atsuko Kudo Mail Magazine 217

2016. 01. 05 ●聞く、読む、朗読する

あけましておめでとうございます！

お元気でいらっしゃいますか？

2015年は大変忙しい一年となりましたが、すべての奉仕を感謝とともに終えることができました。ひとつひとつの奉仕を導いてくださった主と、祈りお支えくださった皆さまに、心から感謝いたします！

昨年最後の奉仕は、札幌聖書キリスト教会の50周年記念クリスマス・コンサート（12月23日）でした。実家に近い札幌聖書キリスト教会へは、1992年の帰国の際に、初めて礼拝に参加させていただきました。1987年にスペインからドイツに開拓伝道に行き、初めて日本に一時帰国したのが、留学から7年半後の1991年、1992年は2度目の帰国でした。それまで、日本の教会とはほとんどコンタクトがなかった私に、当時の札幌東キリスト教会（現・札幌聖書キリスト教会）の牧師であった八尋 勝先生が、「工藤さんには日本で支えてくれる教会が必要ですね」とおっしゃり、教会の承認を得て、客会員として迎えてくださいました。以来、現在に至るまで、私の働きのために祈り支えてくださっている教会です。この札幌聖書キリスト教会の50周年記念のコンサートで奉仕させていただけたことは、大きな喜びでした。

コンサートには大勢の方々が来て下さり、会堂は一杯になりました。父、親戚、声楽の恩師、音大の旧友たちも来てくれ、これまで祈ってきた家族、友人たちにも主を大胆に証しする機会となりました。

## ●聞く、読む、朗読する

「(主は) 戦いのために私の手を鍛え、私の腕を青銅の弓をも引けるようにされる。」(詩篇 18:34)

これは、2012年と2015年の年頭に与えられたみことばです。今年も同じみことばが与えられました。

昨年は、以前より敵の策略がどのようなものかに気づかされ、どのようにそれに対抗すべきかを学び始めた年でした。その対抗法のひとつは、みことばでした。

「救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。」(エペ 6:17)

数年前から、聖書を目で読むだけでなく、声を出して朗読するようになりました。それは、英国のある牧師が、「神のみことばを朗読するのは大切です。なぜなら、それは、空中の支配者に、神の権威あるみことばを、主の勝利を宣言することだからです。」とおっしゃるのを聞いたからです。みことばを宣言するとき、その権威の前に、敵の力は弱まるのです。

そして、丁度一年前から、「読む」、「朗読する」に加えて、聖書を「聞く」ようになりました。きっかけはドイツのクリスチャンから、さまざまな言語で聖書を聞くことができる Bible.is というサイトを教えてもらったことです。さっそくダウンロードし、いつも持ち歩いている iPad に入れました。

その「聞く聖書」から、最初に「ヨハネの福音書」の冒頭の節を聞いたとき、それまで味わったことのない感動を覚えました。

「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」

圧倒されるような神のみことばの権威を感じ、それからというもの、毎日のように「聞く聖書」を開くようになりました。そして、聞いた箇所を読み返し、時に声を出して朗読し、熟考するという、新たなみことばの生活が始まりました。

聞くとき、読むとき、朗読するときでは、同じ箇所でも、語られる節、文、言葉が違い、それぞれに違った気づきを与えられます。そうやって、聞き、読み、朗読した箇所が、内側にしっかり残るようになっていきました。そうすると、試みや困難に遭遇した時にも、すぐにみことばが心に浮かび、祈りと共に、そのみことばを持って対処できるようになってきたのです。

今年も、主に「知恵と啓示のみ霊」を祈り求めつつ、「聞く」、「読む」、「朗読する」を続けて行きたいと思っています。

~~~~~

明後日7日の夜の便でドイツに戻ります。ドイツには8日に到着予定です。どうぞフライトが守られるようお祈りください。

1月から3月まで、小さな動きはありますが、まずはゆっくり体を休め、基本的に、みことばと祈りに集中したいと思っています。4月から始まる奉仕のために、主との交わりの時が祝され、主にさらに近づくことができますようお祈りください。

皆様にとって、2016年が、主に守られ、恵みに溢れる一年となりますように！

工藤篤子

